



おすすめ科学絵本

自由研究のヒントにもなる科学絵本を6つのカテゴリーに分け、選びました。

★印のついているものは、児童書店が選んだおすすめ絵本です。



『ちいさなちいさな めにみえないびせいぶつのせかい』

文／ニコラ・デイビス 絵／エミリー・サットン
訳／越智典子 監修／出川洋介
1,500円（ゴブリン書房）

海水ひとしずくの中には2000万もの、スプーン1杯の土の中には10億もの微生物がいます。微生物が死んだ動物や枯れた植物をすべて土にかえてくれることで、地球全体が保たれているのです。

生物



『あそぼう！むしのもり』★

作／タダサトシ 1,300円（小学館）

虫たちがとても身近に感じられる絵本です。森の中での虫たちとの遊びは、驚きと楽しい発見がいっぱいで、深く知りたい気持ちが高まります！（えほんの店 コッコ・サン 高知店／生駒 聖さん）

『ちきゅうがウンチだらけにならないわけ』★

作／松岡たつひで
1,400円（福音館書店）

おっぱい、おしり、ウンチ。子どもが大好きな3要素。大人が科学絵本に求めるのは「たくさんの知識を正確に」ですが、子どもの興味に沿って楽しく学べる感動の本。生きものは何かを食べウンチをする。そのウンチはどこに消えるの？ 子どもの素朴な疑問の答えが、散歩の途中でウンチの始末をされる飼いいヌの視点から描かれています。（ちいさなえほんや ひだまり／青田正徳さん）



『海のなかのぞいた』★

作／よしのゆうすけ
1,200円（福音館書店）

海の中のカエルウオやヒトデなどの生きものたちに、水中メガネ初体験のほくの目を通して出合わせてくれます。写真も美しくリアルなので、好奇心が刺激され、不思議ワールドに誘い込まれます。（絵本専門店＆コーヒー グリム／飯塚須磨子さん）

『チーターより はやくはしるのはだあれ？』

作／ロバート・E・ウェルズ
訳／せなあいこ
1,300円（評論社）

2本足の動物で最速なのは、時速72kmのダチョウ。4本足の動物では時速112kmのチーター。でも、ハヤブサの時速320kmにはかないません。でも、それよりずっと速いのは？



『チョウのはなし かしこくおしやれでふしぎな、 ちいさいのち』

文／ダイアナ・アストン
絵／シルビア・ロング 訳／千葉茂樹
1,500円（ほるぷ出版）

チョウの中には越冬のため、平均時速30kmでカナダからメキシコまで5000kmの旅をするものがいます。また、この本ではガとチョウの違いなどをつぶさに見ることができます。



『ぼくの鳥の巣絵日記』

作・絵／鈴木まもる 1,400円（偕成社）

山の中に住んでいる著者が四季を通して、庭にやってくる野鳥を定点観察しています。つがいになって巣をつくり、卵を交代であたため、生まれたヒナにエサをやり育てます。鳥たちの巣づくりの様子が仔細にわかります。

『ジンベエザメのはこびかた』

写真／松橋利光 文／高岡昌江
絵／宮野耕治
1,300円（ほるぷ出版）

高知で定置網にまぎれ込んできた、全長5mのジンベエザメを、460km離れた大阪の海遊館へ運びます。途中で水槽の水を交換し、体調をチェックしながら、真夜中の大移動は、慎重に進みます。



『どうぶつえんガイド よんでたのしい！ いってたのしい！』★

作・絵／あべ弘士 デザイン／なかのまさたか
1,600円（福音館書店）

「ラクダのこぶはおべんとう」「リスはちょきんがすき」など、中のタイトルだけでそそられます。それぞれの特徴を盛り込んだ解説が最高にもおもしろい！ 動物のこと、もっと調べてみない？（えほん館／花田睦子さん）

連載

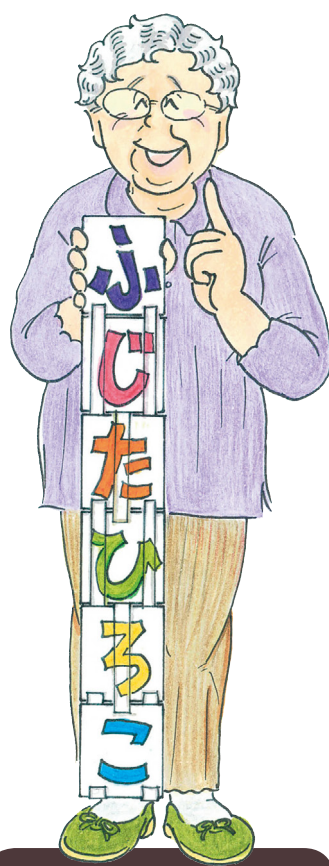
第33回

おはなしお婆さんの

おはなしのたねあかし

お金持ちの家の爺様が八十八歳になり、お祝いをするようになりました。招待したお客様に持ち帰ってもらおう引き出物を買いに、使用人の作男が町までやってきましたが……。

イラスト／保坂あけみ



藤田 浩子

1937年東京生まれ。福島県三春町に疎開し、昔ばなしを聞いて育つ。幼児教育に携わりながらおはなしを語って50年。現在は西小岩幼稚園をはじめ、小学校や大学などでも小道具を使った楽しいおはなしを語り、大人向けの講演会のため全国を飛び回る毎日。

『すえひろ』

むがあし まずあつたと。

あるとこに でえしん たいそうお大尽の家あつてな

その家の爺様の じさま 八十八の祝い

することになったんだと

ほおで 旦那様が

「爺様の八十八のお祝いには

そうだ すえひろを配るべえ」

ほおゆつて 作男 呼ばつてな

「おーい ちよつと来い

爺様の八十八の祝いに

すえひろ引く（贈る）べと思つてるからな

おめえ町さ行つて

すえひろ五十本ばかり、

買つてきてくなんしょ

物お選ぶ時はな

竹の骨がしつかりしてるかどうか

そこおよく調べて来いよ

それから この紙のお貼り具合がいいか

開けたり閉めたりする時の具合がいいか

滑らかに開いたり閉じたりするか

ほおでまあ 模様なんぞもちよこつとなあ

気にして ほおで選んで来いよ」

と そうゆわれて 作男は

「へい」

となつて 町さ跳ねて行つたんだけど

そこではたと考えた

すえひろつつやあ なんだべ

すえひろつつやあ なんだべな

竹の骨があつて 紙が貼つてあつて

開けたり 閉めたり

開けたり 閉じたりするのが

滑らかにいくような物

ほおで 模様も描いてあるような物

なんだ？ なんだべなあ

ほおだ提灯だ！

提灯と思つたもんでなあ

提灯屋さんさ行つてな

「もしもし 提灯くなんしょ

提灯には これ



この人にあれもこれも

絵本作家さん こんにちは！



「ぴょーん」
などでおなじみ！

まつおか たつひで
松岡 達英さん

親子で野山を体験してほしい

自然絵本作家の第一人者として40年以上にわたり自然科学絵本を描き
赤ちゃんから楽しめる『ぴょーん』でも人気の松岡達英さん。

新潟県長岡市のご自宅で少年時代や自然への思いを語っていただきました。

撮影／石川正勝

PROFILE

まつおか・たつひで

1944年新潟県長岡市生まれ。自然絵本作家。日本はもとより、世界五大陸で自然観察の旅をし、数多くの科学絵本を発表。2000年に長岡市にアトリエを構え、里山に暮らしながら大好きな自然を描く。アトリエ グリーンワークス <http://www.gw-gallery.com/>

自然に助けられ
自然から学んだ少年時代

僕が育った家は新潟県長岡市の
栖吉川と福島江の近くにあり、幼い
ころから川や野山を駆けまわって
過ごしました。

家のまわりにはキジもやってくる
んだけど、あはれ里山の鳥だから
珍しいわけではないんです。今も近
くまで来て、朝にはケンケン鳴いて、
うるさいよ(笑)。

福島江にはいろいろな魚がいて、
釣りに行くのにエサになるミミズを
探していると、おふくろが「油をわ
かして待ってるからね」と言うんだ
けど、そういうときに限って釣れな
かったりしてね。

春先にはショウジョウバカマやカ
タクリが咲くから、おふくろにぜひ
見せてあげたいと思って採って帰る
でしょ。ところが家に着くとしおれ
ていて、それがショックだね。

小さな虫もよく観察しました。
ケンカで泣かされても、じっと下を
見ていると地面にアリンコが通る
じゃない。するともうニコニコし
ちゃう。

そういうのが大好きで、チョウや
昆虫を捕まえると観察して絵に描
いたり、標本にしました。石をひっ
くり返すとどんな虫がいるとか、基
礎的なことは自然の中で遊びを通
して、会得してきたわけです。

追悼

佐藤さとるさん コロボックルを ありがとう

「コロボックル物語」で日本のファンタジーの礎を築いたといわれる佐藤さとるさんが2017年2月9日にお亡くなりになりました。長年タッグを組んで作品をつくってきた村上勉さんとともに、追悼の意を込めてその作品世界を紹介します。

佐藤さとる さとう・さとる

1928年、神奈川県生まれ。『だれも知らない小さな国』で毎日出版文化賞、国際アンデルセン賞国内賞などを受賞。日本のファンタジー作家の第一人者として数々の作品を残し、2017年2月9日に逝去。

佐藤さとるさんの代表作。佐藤さんが、子どものころから書こうと心に決めていた、小さい人が登場する物語。30歳のころようやく書きあがり、『だれも知らない小さな国』として、1959年に私家版として出版しました。同年、講談社から正式に出版され、毎日出版文化賞を受賞します。

その後、62年に『豆つぶほどの小さいないぬ』を刊行。65年発表の『星からおちた小さな人』から村上勉さんが挿絵を担当することになります。71年に『ふしぎな目をした男の子』、83年に完結編として12年ぶりの『小さな国のつづきの話』が発売されました。そして、87年に『小さな人のむかし』をコロボックル物語別巻として刊行し、シリーズの絶筆宣言がなされます。それから27年後の2014年、コロボックル物語の大ファンである小説家の有川浩さんがバトンを受け継ぎ、『コロボックル絵物語』が刊行されました。

佐藤さとるさんによる全6巻のコロボックル物語は、刊行時から今もなお、たくさんの読者に広く愛されています。そして、これからもずっと、子どもたち、かつて子どもだった大人たちの心に生き続けるのではないのでしょうか。



撮影／講談社写真部

コロボックル物語とは



コロボックル物語

- ①『だれも知らない小さな国』
- ②『豆つぶほどの小さいないぬ』
- ③『星からおちた小さな人』
- ④『ふしぎな目をした男の子』
- ⑤『小さな国のつづきの話』
- ⑥『小さな人のむかし』

作／佐藤さとる 絵／村上 勉
単行本版 全6巻 各1,500円

青い鳥文庫版 全6巻
①②④各620円、③⑤⑥各580円

文庫版 全6巻
①②③各590円、
④570円、⑤560円、
⑥『コロボックルむかしむかし』
と改題 520円



いずれも講談社

今号の 注目

『だんご屋政談』

作／春風亭一之輔
絵／石井聖岳
編／ばばけんいち
1,500円(あかね書房)

きんぼうは町内きつてのきかんぼう。
今日もお父つあんと祭りに来ては
大暴れ。だんご屋のみつ壺になめた
だんごを突っ込みます。怒っただんご
屋が南町奉行所の大岡越前さまに訴
えました。大岡さばきが痛快です。



作者から

今回は、深夜の1時に打ち合わせをしたのが間違いでした。「そう
いえば」と、何気なく見せた半立体の作品に「これいいですね!」
「だよね!」「半立体で絵本!」「それだ!」と深夜特有の妙なテンシ
ョンで盛り上がってしまい、即採用。翌朝、すごく後悔しました。
「半立体は箱に入れるの? 箱も作るの? スキャンできるの?
撮影? 誰が? どこで?」。そんな数々の疑問や不安を、見て見
ないフリしてなんとか完成したのがこの絵本です。

(石井聖岳さん)

『えらいこっちゃんようちえん』

文／かさいまり
絵／ゆーちみえこ
1,300円(アリス館)

幼稚園はおうちと違いすぎて「えらい
こっちゃん」の連続です。はじめての立ち
ションに失敗したら隣の子が笑いなが
ら「ほくも失敗したよ」。帰るとき、先生
が手を握って「明日も待ってるよ」と言
ってくれて、また行くのが楽しみです。



『あいくりーむに ありをのせたら あいうえお』

作／accototo ふくだとしお+あきこ
1,400円(イースト・プレス)

リズムが心地いい「あいうえお絵本」で
す。ナンセンスな文と色彩豊かであた
たかい絵がびったり合っています。テ
ンポよく夢中で読んでいると「みなさ
ん このほん……」。「ん」まで読んでの
お楽しみ。



文字が**大きく**なって読みやすくなりました!

もう
読んだ?

新刊 100!!

2016年12月～17年2月に発売された新刊絵本
の中から、読みきかせにもおすすめの100冊を選
びました。

※出版社五十音順

📖 マークは乳幼児から、🎵 は中・高校生も楽しめる本です。

定期購読者限定プレゼント🎁

新刊絵本プレゼントの詳細は、このページの下欄をご覧ください。

『みんなのあかいほん』

文／コチミ、ティディエ・レヴィ
絵／コチミ
1,200円(アートデイズ)

赤い本を読みながら歩いていると、「ほ
くにもよんで!」と鳥が飛んできました。
読んであげると、次々に動物たちが
やってきます。みんなも本を読んでも
らいたいみたい。赤い本は大人気です。



『ひげひげ わたりひげ』

作／酒巻 恵
1,300円(あかね書房)

渡り鳥ならぬ渡りヒゲ。春になると飛
んできて、卵を産んで育て、秋になると
南へ飛び立っていきます。いろいろな
ヒゲがあり、生きものの鼻の下にお
いが大好きで、鼻の下にとまり、生き
ものたちはみんな、ヒゲづらになります。



『あめ』

作／イブ・スバンク・オルセン
訳／ひだにれいこ
1,300円(垂紀書房)

窓辺で雨を見ていたシャロツテの前
に、へんてこな雨つぶがふたつ人間み
たいに立っていました。バラバラとボ
トボトと名乗るふたりは、シャロツテに
雨が降る仕組みと彼らの旅について教
えてくれました。

